

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

2001年3月 No.125

胎児を守る運動

「悔い改め、良き知らせを信じよ」

悔い改めへの差し迫った呼び掛けは、ちょうどそれが洗者ヨハネ(マテオによる福音書 三：2)や、主イエス(マテオによる福音書 四：17)や、ペテロと他の使徒たち(使徒行録 二：37-38)のような教えを宣べる者たちが示すものであったように、四旬節の始まりを示すものです。それは死へとつながる罪を捨て、いのちへとつながる福音を受け入れる意識的で自由な選択をせよという呼びかけなのです。その呼びかけは実際、第二の法の書 三十：19で「私は生命と死…を示した。生命を選べ。」と発したモーセの呼び掛けが完全に実を結んだものです。

私の気に入っている四旬節の福音の文章のひとつは、生れつきの盲人(ヨハネによる福音書：第九章)の話です。私たちはここで、キリストの呼びかけを受け入れる意志と拒否する意志のドラマを見る事ができます。生れつきの盲人は、話の始めのほうで肉体的な視力を回復

しますが、そのドラマのあとの部分は、彼の心の目の誕生を追っています。最初彼は、イエスのことをイエスという「かた」(11節)と呼び、次に「預言者」(17節)と呼び、次いで「神からきた人」(33節)と呼び、そのそして最後に「主」(38節)と呼んでいます。彼には信じる気持があつたので、イエスが誰であるのかがわかるようになるのです。「主よ、それはだれのことですか。私にその方を信じさせてください。」(36節)

この意欲的な姿勢は、パリサイ人のかたくなさや悪意と鮮やかな対照をなしています。肉体的な癒しという同じ証に直面しながら、彼らはその男と両親への尋問によって、そしてイエスを罪人呼ばわりすることによって、そして最終的に癒された男を外に追い出し、その証を文字通り戸口から放り出してしまふことによつて言い逃れをしようとしています。(34節参照)

このドラマは私たちの社会が「死の文化」と戦うとき、毎日繰

り返されているのです。そしてその死の文化は中絶という進行中の悲劇の中に本質的な姿を表しています。その証は誰の目にも同じものであり、中絶によつて人間が殺されていることが、遺伝学や胎児学によつて今まで以上に明らかなものとなっています。その証を意欲的に受け入れ、いのちを選ぶ人もいます

が、パリサイ人と同じかたくなさを示して、自分たちのイデオロギーに執着する人もいます。私にとってこの最も顕著な例は、中絶反対のグループが、中絶を行なっている施設の前で、中絶された赤ん坊のお通夜を行なった日でした。手のひらほどの大きさの赤ん坊が、白い棺に入れられているのが見えました。中絶賛成を唱える人々が数人その赤ちゃんを見たとき、一人の中絶反対の人が彼らに、「あなたの目の真ん前にある証を見なさい。これは赤ん坊です。」と詰め寄りました。まさか

と思うでしょうが、その人の返事は、「それはあなたの意見で

しよう。」だったのです。

子宮の子どものことを知らないことは罪ではありません。しかし知ることを拒否することは罪なのです。イエスはヨハネによる福音書：第九章の終わり、パリサイ人に、「もしあなたがたが盲目だったら、罪はなかつたらう。しかし、『見え』と言っているからには、あなたたちの罪は残る。」(41節)とはつきりと言われています。

「悔い改め、良き知らせを信じよ。」良き知らせとは何でしょうか。良き知らせとは「いのちの福音」の言葉では、「いのちは、つねによいものです。…世界に神の栄光を現すのであり、神の現存を示すしるしであり、神の栄光をつかがわせませす」(34節)と書かれています。この四旬節に、もう一度いのちのほうを選択しましょう。

フランク・ペイボン



中絶論争の論理

中絶への闘い、つまり胎児の命を守るための私たちの立場について一般的な考えを、私はこの論文で述べようと思います。最高裁判中絶を合法化してから、かなりの年数が経過しました。したがって私たちは、現在選択しているものを検証し、将来進むべき方向を決定するべき時に来ているのです。

「一」 過去：命を

尊重する人々

これまでの10年間を検証すれば、悲しみと誇りの両方の感情が湧いてきます。悲しみは、一九七三年の最高裁の決定によって始められた中絶政策を評価したときの感情です。そして、誇りは当然生

きる権利を国家の政策として再確立させようと一生懸命になつてい

る何千人ものボランティアの人たちを評価したときの感情です。

まず、口ウエード訴訟がどういう意味があったかを知るには検証をすることが必要です。現在の問題の重要さを把握するには、一九七三年の最高裁の決定によって生じた問題の深さを詳しく述べなければなりません。その決定は急激で大きな影響を及ぼすもので

した。というのは、あらゆる形態の中絶を正常な医療行為の例外として扱った既存の政治的・法的構造を一撃で覆したからです。その訴訟の目的は、中絶に何の制約も与えない政治的・法的構造を確立することだったのです。当時の世論は、年間に百五十万件を超える中絶を認める政策に全く賛成していなかったと、現在ほとんどの人が確信しています。あつと驚くような決定の中には、道徳的に正当化され政治的に必要なものもあり

ますが、一九七三年の決定は正当化されるものでも、大半のアメリカの国民にとつて必要なものでも、受け入れられるものでもありませんでした。

最高裁の決定は既存の法律を変えただけでなく、医療行為や、社会奉仕機関や、中絶をすることを合法化し容易にした行政施策における現在の考え方を確立した意味

で大きな影響を及ぼすものだったのです。この決定によって、社会の中絶に対する考え方が全く変わってしまったのです。この決定によって変わらなかったことは、求めれば受けられる中絶は、胎児の命を尊重するという注意を要する領域において、個人や家族が直

面する現実の問題を扱うための満足のゆく方法ではないという、アメリカ市民の確固たる考え方だったのです。

中絶反対運動という一般大衆の信教的立場を形成したのは、中絶に対して個人個人が深く感じている反対の思いだったのです。この運動には、確かにカトリックの要素が色濃くありましたが、それは宗教的、政治的境界線を越えてしまったものなのです。中絶反対運動に関わるすべての人にとつての誇りの真正正銘の源であるのは、社会のこの中絶反対のグループの人々なのです。市民の無関心が重大な社会の問題となつていき、中絶反対運動は、人々に、個人的、専門的、政治的に中絶反対の行動を取るよう促してきまし

た。様々な問題に関する人々の考え方の道徳的な側面を明解にしなければならぬとき、中絶反対運動はその政治問題を、明確な道徳的な問題としたのです。最終的に、その運動は政治的であるばかりでなく司祭としての仕事でもあったのです。また、その運動は、中絶以外の方法を提供するための現実的な努力もしているのです。

このような理由から、私は命を尊重することが、希望と誇りの根拠であると主張いたします。過去で学んだ教訓から、私たちは将来私たちが取るべき道を分析する準備ができるのです。

「二」 現在：一般大衆に命を尊重する道を選ばせる

中絶反対運動の影響は、その観念的な性質に限定されることはありませんでした。それは政治に特別な影響を与えてきたのです。最高裁の決定から11年がたち、口ウエード訴訟の時の考え方を支持する一連の訴訟が続いた後も、中絶賛成の考え方は多くのアメリカ人には受け入れられてきませんでした。要するに、中絶の法的状況をまだ一般の人々は合法的だと認めていないのです。

普通、現行の法律の効力は政策に合法性を与えるものです。現行の政策の改正や逆転のための余地を残したことは、中絶反対派には意義ある政治的な勝利です。しかしながら、それを完全な成功だと考えるべきではありません。

法律や政策を変更する余地を造ることは、達成すべき目標の前提条件です。中絶に関する国の政策を変えるために努力するとき、他の人からの支持をつまぐ得られるように、私たちの主張を定義に幅をもたせた言葉で表現しなければなりません。私は思います。私たちは、これまで私たちの証言や主張によって心を動かされなかった人々に、中絶問題に興味を起ささせることができるように、意識的に私たちの立場を構築する必要があります。

ます。

ローマ・カトリックの司教としての観点から、私は、罪のないものを直接殺すことはどんなときでも間違いであるという基本的な道徳的原理は、カトリックの教義の根本をなすものなので中絶以外の、戦争や、障害者や、末期患者の介護の場合に、その基本原理を守ることは自明のことだということ

を強調したいと思います。こういう理由で、命は神聖であるという原理を、中絶以外の場合には適用しても、中絶の場合には命の神聖さを否定するならば、真の中絶反対論者とは言えないのです。この原理を支持することができなければ、それは、カトリックの道徳的原理における重大な間違いをおかしていることになるのです。

中絶への反対は、法律や社会的な慣習は、かならずそのときとときの道徳的な分析を受けなければならぬという信念に根ざしていません。ただ法律があるからといって、それが盲目的に支持されるべきだということにはならないのです。法律や慣習をじっくりと正しい情報に基づいて考えるように促すことは、社会が物事を道徳的に判断する能力を活性化させておくことです。さらに、中絶に反対するというカトリックの立場は、社会における政府の役割を私たちが理解しているという事に根ざしています。国家には明確に道徳的

な責任があります。国家は単なる中立の審判者でもなければ、またその役割は悪を抑制することだけに限定されるものでもないのです。国家の責任には、罪のない命を攻撃から守ること、人間の発達のあらゆる段階で命の価値を高めることの両方が含まれます。アメリカ合衆国で一年間に百五十万件の中絶が行なわれているという事実は、国家の道徳性をむしろんでいるのです。罪のない命が攻撃されているときに法律が中立であり得るならば、私たちの社会における法律や道徳性に対する影響は大変なものとなります。

中絶に反対することは、宗派の違いによる主張ではなく、全ての人に求められている思慮深く理性的な考え方なのです。中絶について私たちが抱く憂慮が、アメリカ社会の他の重要な社会問題にも同様見られるということ、実例を用いて説明することができま

「三」 未来：人々に命を尊重させるための戦略

私が、教会や社会がどんな場合でも命を尊重するべきだというテーマについて話し続けてきたのは、中絶と他の問題との関連を証明することが、中絶反対の考え方にとって道徳的にも正しく、戦術上必要でもあると確信しているからなのです。公民権、人権、中絶問題を抱える家族の生活に関して話題が集中するということは、まさしく、あらゆる領域の人命尊重の問題により密接な関連性があるということを示すものなのです。種々の問題の関連性に関して私が行なった提案は、「人命尊重」というカトリックの考え方の中でずっと暗黙の了解事項であった理想を明確に表明しようとする体系的な試みなのです。人命尊重のカトリックの考え方は、社会の枠組みの中で命が相互に依存しあっているということと、いかに私たちが他人は私の命を尊重し社会は一人一人の人間に対して命を尊重することを保証するためにあるという前提条件を信じているかということ

命が相互に依存しあっているのと同じように、人命尊重に関わる諸問題は相互に関連性のあるものなのです。

お互いに関連性のある、どんな場合でも人命を尊重するというテーマは、平和や、中絶や、公民権や、難民や障害者に対する正義といった、命を尊重するという基本的な姿勢に依るところの多いそれぞれの問題に関心のあるグループが、共通の関心を持ち、お互いを必要としているということを確認するものです。その共通のテーマは、私たちに、命に関わる問題に関して同じ意見を持った「仲間」を得る機会を与えてくれます。私たちが命に対する権利という原則を主張するのは全く同じように、私たちは、私たちの取り組みが私たちに課している責任を認識しなければなりません。それぞれの命に関する問題に取り組んでいる人々を結びつけるためには、これらの潜在的な同志に対する尊敬と思いやりが必要とされます。互いに信頼し理解しようとする気持ちがあれば、中絶反対運動の目標の推進に大きく貢献できるので

会的慣習との間に存在している本質的な結びつきを強調していきま

おける変化は、必ずしも生きる権利の運動に携わっている各自の直接の責任ではないかもしれませんが、それは、全ての人が強い関心を持つべきものなのです。私たちの社会を、もっと人間らしく、もっと愛情に満ちた、他人の命や尊厳をもっと尊重するものにするものは何であつても全て、あなたがたの闘いに貢献するものです。というのは、社会が正義と思いやりに取り組むようになればなるほど、胎児の殺害を大目に見ることがますますおかしくなってくるからです。そして、胎児への尊重を促進するものは全て、全ての人間に対する尊重を促進せずにはいられないのです。そのことを心に、もう一度活力をよみがえらせて、この命を尊重するという理想に取り組むようにあなたにお願いしたいのです。最も無防備な状態で人間性が脅かされるころでは、選択の余地はありません。私たちは、そのものために立ち上がらなければならないのです。

ジョセフ・バーナディン枢機卿



自殺幫助

「思いやっているのか、それとも殺しているのか」

私は看護婦で、患者のためなら何でもするつもりですが、患者を殺すのはごめんです。やがて私のような看護婦が自分の主義を放棄し、患者がまるで殺人犯であるかのように殺されるのをなすすべもなく見守らなければならなくなる(さらには幫助しなければならぬ)かもしれないことに憤りを感じずにはいられません。

たいと主張した末期ガンの強い女性の言葉の背後にある恐怖と絶望を感じたこともありました。人工呼吸器でやっと呼吸をしている瀕死の我が子をこの腕に抱いたこともありました。

実際誰でも、どんな状況下にあつても、自ら命を奪うことは本能的にいやなことです。人の命を奪うことは、そのことを十分に正当化することだけでなく良心も麻痺させることを必要とします。これらは、殺しのプロが持つべき「資質」であつて、理想的な医者や看護婦が持つべきものではありません。

しかしそのような人たちが殺そうという誘惑にかられたことは、一度たりともありませんでした。殺すことと思ひやることは決して両立するものではありません。自殺幫助運動の要求を黙認すれば私たちの社会がどのように変化するだろうかなどとも誰も問いかけてはいないのです。実際にはつぎのようなことを問いかけています。自分の深い恐怖心やプラスチック・シヨンを、苦しみを永遠に消し去る力を持った医療関係者に打ち明ければ患者は本当に気持ちよくなるでしょうか。ジャック・カポーキアン氏のような人々が法律上の罰則を受けずに現行の法律を日常的にないがしろにしている時、どれだけの法的規制措置が守ってくれるでしょうか。自殺が勇氣ある選択でさらには立派な選択だと言われればどのくらい高齢者や若者のような自殺の危険度の高い

安楽死の事実

(ジヨー)

人々の自殺率が跳ね上がるでしょう。もし自殺幫助が、緩和医療や機能回復医療よりも費用効果が高いとみなされるなら、どれほど医療の経済的側面が影響を受けるでしょうか。

は、苦しんでいるのは父親ではなく自分であることに気がつき始めました。私たちは、彼の父親の願いと、自殺幫助の合法性とか、どれほど自然な死が尊く意味があるかについて話し合いました。

翌日の夜勤務についたとき、

ジヨーが数時間前に亡くなっていました。あの息子が私に話すことがあるので残っていると、いうことを私は知りました。父親が自然のままに人生を終えることができると喜んでいて、彼が言ったとき、私は感動しました。

自殺幫助が拒否される時、患者が不法な行為をせずにすむだけでなく、家族も一生罪悪感を感じたり言い訳をしたりせずすむのです。

(マイク)

17才のマイクは自動車事故で重傷を負い昏睡状態で私の二こに運ばれてきました。彼は呼吸もできず、痛みに対する反応もありませんでした。外科医は彼を診察して、「この少年は今夜は越せないだろう。でも実際その

ほうがいい。たとえ助かっても彼は植物状態になるだろう。」と言いました。私は特に患者を前にして、その医者がはずけずけと言ったことにシヨックを受けましたが、死んだも同然の患者のことを心配するのはばかげていると言われました。

しかしマイクはその夜死にまみれませんでした。私は彼に話しかけ、一日中テレビをつけっぱなしにしておき、彼の家族に話しかけてあげるよう励ましました。最終的に全ての看護婦が関わりました。ついある日、マイクは指を動かしたのです。私たちが彼にもう一度指を動かすように言うとき、彼は指を動かしました。私たち看護婦はとも興奮して脳外科医を呼び、彼はマイクを診察し、意識の兆候を検査しました。マイクは死んでいるように動きませんでした。脳外科医は私たちに、患者に感情移入をしすぎていないんじゃないのかねと言いました。

ひるむことなく私たちはマイクに話しかけ続けました。彼は快方への兆候を見せ続けました。彼は今では自発呼吸ができ、私たちがそうするように言う手を、そして腕を動かす始めました。しかし、脳外科医がマイクを診察したときには、意識の兆候を認めることができませんでした。

マイクは最終的に私の「ここからよへ移され、私たちは彼はどうなったのだろうか」とよく思いました。彼がこれからの人生をたぶん施設で過ごすことになるところと私たちは思っていました。しかし2年後、ハンサムな若者が私たちの「ここ」に入ってきて、「こんにちば。僕を覚えてる？」と言ったのです。もちろん私たちは彼が自分がマイクだと明かすまでわかりませんでした。彼は私たちに、命を助けてくれてありがとって言って、完全に回復して結婚することになって

いると言いました。笑いながら、私は、「もちろんあなたは覚えてないでしょうけれど、私たちがそうするように言うとおあなたはよく体を動かしたもよ。でも脳外科医がいるときにはそうしなかつたわ。」と言いました。マイクは突然真剣になって、「いや、覚えてるよ。」と言ったのです。彼は私たちに、脳外科医が自分のことを植物だと言ったことに腹が立ったので、わざと医者

の言うことに反応しなかつたのだと言いました。考えられないほどの昏睡状態にある人が、「ここ」に運び込まれたあの夜に外科医の言ったことを聞いて理解できていたとは他の看護婦も信じていることができませんでした。

その日、マイクは私たちに大

切な教訓を教えてくださいました。私たちは人を決して「植物」などとみなしてはいけません。全ての人は人間として尊重されなければなりません。私たちはまた、いたわりと献身が奇跡をもたらすことを知りました。

それ以後、新しい看護婦が私たちの「ここ」に来るたびに、たとえ反応しなくても、意識があるかのように敬意をもって説明をしながら全ての昏睡状態の患者を扱わなければならぬと私たちは話してきました。そして、また私たちはもっと多くの患者が「目覚める」のを見て興奮しました。

悲しいことに、自殺補助は、死と身体障害という現実を嫌う社会にとつての万能薬として受け入れやすいように手を加えられて提供される暴力以上の何物でもないのです。「殺す権利」を合法化する代わりに社会は、最も弱い人々を搾取から守り、私たちを急に出てくる悪い判断から守る必要があるのです。

ナンシー・バルコフ 正看護婦

苦痛の緩和と安楽死

「患者、とりわけ末期患者は、抑えきれない痛みを経験する事がある。このような場合は、死を与えたほうが幸せだ。」これが、安楽死に賛成する人達の主張で

ある。そして彼らは、苦痛を緩和する唯一の方法が患者自身の生命を終わらせる事だと言っている。だが、他にいい方法は本当にないものだろうか。

痛みを苦しむ患者に対するよりよい対処とは、彼らを殺す事ではない。むしろ、苦痛を抑えるために使用できる限りの薬や技術が、より広範かつ完全に活用されているかどうかを確認するのが肝心だと思つ。ワシントン医療協会が作成したマニュアルによると、「90〜99%の患者に対しては、苦痛を緩和する事は難しい」と述べられている。問題なのは、十分な知識のない医師が、時代遅れで不完全な処置しかできないために、今日の最新の医療技術で可能なはずの苦痛を緩和する機会から患者を遠ざけている事である。

今日では、苦痛の緩和に有効な技術も薬も進歩している。このような技術や薬の適用を妨げる壁が存在しながらも（苦痛に対する見解が浅い医師、苦痛を訴えない患者など）、この壁を取り除くための努力も日々なされている。苦痛に苦しむ患者の安楽死を合法化するよりも、まず医師が苦痛に対して適切な処置を知っているのか、そして使っているのかを確認するようにすべきである。

プロ・ライフ

中絶は私にも影響する

あなたが中絶のことを考えたのは、最近ではいつだったでしょうか？その時、あなたはおそらく、「中絶なんか私には関係ないわ。私は中絶に反対している、自分ではそんなことしないから、何の関係もない」と思つたことでしょうか。でも、よく考えてみて下さい。この世のすべての中絶が、私たちひとりひとりと関係があるのです。

あなたにもし親友が、あるいは兄弟姉妹がいなかつたら、どんな人生になっていたか想像することがあります。友人が導いてくれなかつたら、コーチがあきらめないよう励ましてくれなかつたら、今ごろあなたはどのうしていたでしょうか？先生がいなかつたら、あなたの貴重な才能は見出され、育てられていたでしょうか？いいえ、それよりもっと恐ろしいのは、もし両親が存在していなかつたら、あなたは生まれてさえいなかったという事です。

周知の通り、神は私たちひとりひとりのために計画をお持ちです。あなたの前にも後にも、あなたと同じ人は一人としていません。あなたには、神の計画の中

であなたにしかできない役割を託されているのです。現在、中絶によって三千万人の人が、その役割を果たせずに命を絶たれています。これらの人々の中に、世界に平和をもたらしたり、中絶を根絶したり、あるいはエイズの治療法を発見する人がいたかも知れません。このように、全ての中絶が、私たちに強い影響力を及ぼしているのです。

中絶によって殺された人々がもし生まれていたら、私たちの生活はどのように変わっていたのか、結局のところ、私たちにわかりません。それは神だけがご存じです。けれども希望はあります。殺された人々の代わりに、生きている私たちを使って、神は御自身の計画を復旧させるのです。このようにして、神の力によつて、私たちは次の世代が生まれることを確信できるのです。

マーク・デヤング



貞潔支持の運動には真の

思いやりが含まれている

数年前、私は手術台の上に横たわっている私の子どもに付き添ってサイパン島の応急処置室にいました。医師はチューブを子どもの鼻から胃へ通すのに懸命になっていました。娘のマリアは少しガソリンを飲んでいたので、医師は胃を水で洗浄しようとしてました。娘はそれを拒絶し、並々ならぬ力で医師の努力に抵抗しました。助手ができるかぎり頭を動かさないように固定し、一方、私は腕を捕まえ、全身を使って彼女を手術台の上に押さえつけていました。彼女の顔を見ると、恐怖と激しい怒りの表情が見て取れました。彼女は彼女の持てる全てを使ってチューブと三人の男性と戦いました。

チューブが入ってしまうと、彼女はもがくのをやめました。彼女がとても疲れきっていることは十分わかりました。それから胃は空っぽにされ、水で洗浄されました。このことはその日遅くなって起きたので、医師は様子を見るためにその夜は病院で過ごすように言いました。それで、私はその夜彼女のそばで椅子に座って過ごしましたが、彼女が無事だったので幸せでした。

思いやりとは他の人の苦しみ、それを取りのぞくために何かをしてあげようという気持ちを持ってそれをする事です。その日、応急処置室で娘は鼻から胃までチューブを入れられて苦しんでいました。彼女はガソリンから生じる危険に気がついていませんでした。ガソリンで彼女が肺炎になったかも知れなかつたのです。娘の一時的な苦しみを取り除くことは物理的にはたやすいことだったでしょう。つまり、私達はその危険を無視すれば良かったのです。しかし、同時にそうすることは無責任で道徳的に間違ったことであつたでしょう。それはいわゆる、間違つた思いやりです。たとえそのことがしばらくの

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
- [202] 第二の処女生..... + 郵送料
- [203] デート..... + 郵送料
- [204] どうするの?..... + 郵送料
- [205] "NO"という技術..... + 郵送料
- [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
- [207] バージンの瀬戸際..... + 郵送料
- [208] していましたか..... + 郵送料
- [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
- [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
- [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
- [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
- [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
- [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
- [306] ミニソフィアAce エース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
- [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta)....7000 + 郵送料
- [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
- [407] 命美しいものは one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
- [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
- [410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS)....15000 + 郵送料
- [411] (コース・セミナー) **エイズ時代の性倫理...(VHS)....3800 + 郵送料**
- [500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教え)....2987 + 郵送料
- [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)....1000 + 郵送料
- [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
- [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
- [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
- [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ)....650 + 郵送料
- [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
- [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
- [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
- [511] (本) 赤ちゃん:最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
- [512] 本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
- [513] 本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
- [514] 本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
- [515] (本) 経口避妊薬:ピル.....100 + 郵送料
- [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

パンフレット申し込は・・・			
1 ~ ~	5	1部 =	35円
6 ~ ~	100	1部 =	25円
101 ~ ~	500	1部 =	20円
500 ~ ~	以上	1部 =	15円

自由です
組み合わせは

間彼女にとつてぞつとするほどの苦しいことであつたとしても、その日、本当のおもいやりの気持ちは、医師と助手と私に、私達がした通りのことを実行するように要求するものでした。

中絶反対運動に関わっている人々は、そうでない人々から、思いやりの気持が欠けていると非難されることがよくあります。しかし、数百万人の胎児にとつてはこの非難は意味のないことなのです。

貞潔支持の人々もまた思いやりが欠けていると非難されています。そしてそのような非難の音が、中絶賛成の人々からだけでなく多くの聖職者やキリスト教徒からも聞こえてくるのも事実です。教会の内外から、ローマ法王は、避妊は罪ではないと宣言することを拒否していることによつて思いやりが欠けていると中傷されています。この真相は、避妊

に関するキリスト教の伝統を守ることによつて、法王は真の思いやりを実行されているのです。賢明な親と同じように、法王は一時の、さらには人生の苦しみを取りのぞくために、屈することはできません。それは、そうすれば、夫婦の人間としての尊厳を即座に失わせ、彼らの永遠の救いをきわめて危険な状態にすることになることを法皇は知っておられるからなのです。

結婚生活での避妊の重大さについて完全な沈黙を守ることが思いやりのあることではありません。それは、避妊が確実に与えるであろう夫婦と家庭生活への危険を無視することなのです。

今、貞潔支持運動に私達はもつと関わる時ではないでしょうか。そうすることはたやすく、そして思いやりのあることなのです。

ウィリアム・N・コリー

[511] 赤ちゃん:最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬:ピル

注文:	1 - - - - - 5	1部 =	¥ 100
	6 - - - - - 20	1部 =	¥ 75
フルカラー	21 - - - 999	1部 =	¥ 50
	1000 - - 以上	1部 =	¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

日の沈む国：死にゆく国

(日本の人口統計の急落を食い止めるために何をなしうるか)

10年前、日本経済の景気は止まるどころを知らないようでした。

サラリーマンと呼ばれる日本の中流階級の人々は、身を粉にして慣例となっている週70時間労働に汗を流していました。経済成長は常に年4〜5%上昇し続けていました。専門家は、日本経済はすぐにアメリカ経済をしのぐようになるだろうと予測していました。

『Japan as Number One』や『The Coming War with Japan』などのタイトルの本がベストセラーになりました。

10年経った今、日本はそれとは大いに違った姿になっています。経済は大きな壁にぶつかかり、経済成長率は平均わずか1%成長したにすぎません。一九九八年にアジア経済が悪化したときには、日本経済は実質2.8%も落ち込みました。ナンバールワンに到達するどころか、この国の経済は今やアメリカや中国に次いで4位に転落しています。

日本が当初の期待に心えられなかったことに対しては、たくさん説明ができます。しかし、人口調査局にいる私たちにとっては、一つの要素が非常に重要だと思われま

す。もう40年間以上もの間、日本人が産む子どもの数はますます

す少なくなっていて、置き換え水準を下回っているのです。

日本の平均出生率は、一九六〇年頃に置き換え水準の2.1人を初めて下回りました。それから15年間、2.1人のあたりを上下した後、一九七五年にさらに急落し始めました。一九九八年、この年の統計が一新しいのですが、その年までは、日本女性は平均2.08人足らずの子どもしか産まなくなっていたのです。

もし、出生率がこの低い水準で推移すれば、何をみてもそうなのですが、一億二七〇〇万人の人口は、まもなく驚くべき速度で減少しはじめるでしょう。国連の推計によると、二〇五〇年までに日本の人口は現在より三五〇〇万人少なくなるでしょう。残った九二〇〇万人の日本人の平均年齢は54歳になるでしょう。出産可能年齢の女性が少なくなりすぎて、人口減少はさらに加速するでしょう。

しかし、この少子化の影響はすでに出てきています。サラリーマンの高齢化が進み、若い労働者が不足しています。突然にして、日本は年老いて、疲れたように目に映ります。

結婚は男性に有利になっているので、結婚して母親になるよりも

独身生活をしたほうが得るところが多いと確信して、多くの日本女性は独身を続けています。その結果として、日本の出生率は急落しています。実際に結婚する女性たちは、晩婚で、老齢出産で、一人や二人しか子どもを産まなくなっています。

人口減少の危機によって、日本はすでに、年金基金を維持するために年金を切り下げ、退職年金を60歳から65歳へ引き上げざるを得なくなっています。SOCO(経済協力開発機構)によると、若い労働者が扶養する老人の割合の上昇によって、二〇四〇年までに日本の生活水準の成長は毎年0.1%ずつ減少し、21世紀半までにGDP(国民総生産)は23%減少することになりそうです。

移民の受け入れというのは、島国に住む日本人にとって、かつては考えられなかったことですが、その移民の受け入れを、やがて起きる労働者不足と納税者不足の解決方法として唱える人もいます。

しかし、日本の現在の労働力を維持するためには、毎年約60万人の外国人を受け入れなければならなりません。しかし、それだけ多数の移民がどこの国から確保できるのか、そしてその移民が、猜疑

心が強く、外国人にあからさまに敵意を示すことさえある社会にどれほどうまく適応できるかは未知数です。

日本政府の経済企画庁は、低い出生率に対処するための計画を先ごろ発表しました。その中では、労働日数を短縮したり様々な保育のサービスを提供することから、親が家庭で子どもを教える在宅学習の奨励や家庭内の環境の改善まで、ありとあらゆる措置が提案されました。

もし他の国での実践例を手本にしているならば、どれもあまり効果がないでしょう。

同様に、子どもの価値を強調しようとする努力をしても、全く無視されるでしょう。日本には強い宗教心という伝統が欠けていて、日本人は改宗しにくいので有名です。しかし、長崎の大司教は、信者たちに日本人の標準の2倍以上の平均3人の子どもがいると言っています。それでも、キリスト教徒が人口のわずか0.1%に過ぎないということを考えてみると、差し迫った人口の減少に影響を与えることはほとんどできないでしょう。

この惨状は、ギリシャ文明の衰退を思い起こさせます。プルタル

コスは、千年以上も前に次のように書いています。「ギリシャは戦争や伝染病で荒廃することはなかったが、出生率が非常に低く、人口減少が非常に進み、町は寂

れ、畑は耕されないままでいる様子が近頃この国の至る所で目につく。この問題の原因は明らかである。強欲さのためか臆病さのためか、結婚しても人々は当然産むべき子どもを育てようとしな

い。育ててもせいぜい一人か二人である。気づかないうちに荒廃が急に広がったのは、このようにしてである。ギリシャを救う方法は我々自身の内にある。我々の家族観念を変えればよいのである。」

プルタルコスの説得にもかかわらず、古代ギリシャ人は、家族観念を変えず、そのため滅んでしまいました。(ギリシャに現在住んでいる人たちは、ほとんどが初期のキリスト教徒の子孫です。)

日本人が、自分たちの家族観念を変えるかどうかは未知数です。

スティーブン・モウシャー

(人口調査局は、「財」家族計画協会)の名において行なわれている人権侵害を終わらせ、「人口過多」という根拠のない考えを前提とした、逆効果をもたらす社会的、経済的モデルを終わらせることに専念しています。)

事務所便り

桜便りが聞かれる頃、皆様にはお元気で過ごしてでしょうか。

二月号の事務所便りで、『フマネ・ヴィテ』のごとご紹介いたしました。実際入荷してきた実物を見ますと、ミスがあり、一ページのところに挿入紙を一枚入れる必要があるものでした。それで、事務所では訳者の方と相談の上、『フマネ・ヴィテ』の考えを広めたので、この本そのものを御希望の方に無料で差し上げたいと考えました。ただ、今は、事務所は送料までこちらで負担する余裕がありませんので、本のみ御希望の冊数を何冊でも無料でお送り致しますが、送料はそちらで負担して下さい。どうぞ、ご遠慮なさらずに申し込んで下さいませ。そして、『フマネ・ヴィテ』の精神をまわりの方々に広めて頂きたいと考えております。(在庫は三千冊位。申し込み順)

近い内にミスのない本が完成されてくる予定です。その時は、プロ・ライフ資料として販売するつもりです。

読売新聞(1月24日付)によると、英国でクローン技術の人間への応用認める法案が成立、また、1月11日、米国の新興宗教団体『ラエリアン』が設立したクローンエイド社の科学責任者が、年内のクローン人間誕生を目指すこと、そして、同日付けで、日本の関西で人間の胚の研究を企業と大学などが、再生医療のため商品化することが報じられていました。

私たちの目に見えない、どこまでも弱いいのち。国や組織の考えの圧力に私たちが、『寄らば、大樹の影』と自分の声をあげない時、国や組織の責任だけではなく、私たち一人ひとりの責任を問われる時がきつと来ると思っています。沈黙することは簡単ですが、自分の声をあげることは本当に勇気のいることです。でもがんばりましょう。尊いのちのために！

日本プロ・ライフ・ホームページ

十代の性

(10)

Q: Aさんと私はつきあって一年になります。彼は結婚前のセックスは自然なことだと言いますが、私は今までずっと拒んできました。彼のことがすごく好きだし、彼を失いたくないのです。もし私がNOと答えて彼が離れていってしまったら、一生後悔すると思います。

A: 純潔の関係がふたりにとつて一番だと、心の底から信じていますか？セックスによらない関係が本当にいいとあなた自身の考えを明らかにすることが大切です。そうすれば自分の信念

と思いを彼にはっきり伝えられるでしょう。「もし本当に私を愛しているなら、私の考えを尊重して無理強いはいしないよね」と。さらに「もし自制を貫いてくれたら、あなたを恋人として、将来は夫として信頼し続けたい」と話しましょう。

人生には常に、選択すべき分かれ道が待ち受けている。その時点でベストと思える選択をし、その結果を運やツキ、他の誰かのせいにはせず、自分自身素直に受けとめられるのが真の大人です。NOと言うのが長い目で見てふたりの関係にとってベストと判断し、そう決意したなら後悔はしないはず。もしあなたがYESと言っても、この先彼があなたへの興味をなくしたら、結局は彼を失ってしまうのです。もしたら後悔しませんか？その時誰を責めるでしょう？結論からいうと、あなたがNOと言って彼が去っていったとして、失うものは何ですか？あなたのために自制しようとしてくれなかった恋人のことを、人間として本当に尊敬できますか？

3月

定価 100円

毎月一回

